



宿輪 純一氏



No.339 平成30年5月15日発行  
 発行・編集 連合駿台会  
 発行人 広報委員長・齋藤柳光  
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子  
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十一-二  
 明治大学「紫紺館」内  
 電話 (〇三) 三二九六―四七四七  
 印刷 有限会社 美 創

## 連合駿台会三月例会

「歴史が規定する経済」

エコノミスト・映画評論家 宿輪 純一氏

連合駿台会平成三十年三月の例会を、三月十四日(水)十七時四十五分より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、宿輪純一氏をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、田村駿会長から次のような挨拶がありました(挨拶主旨)。

今年は例年になく花粉が多く飛散しているそう、特に今日、明日はスギ花粉のピークという情報もあるので、皆様にもくれぐれも気をつけていただきたい。今年の冬を振り返ると、みぞれや雪と、本当に寒い日が続いたが、このような年は、ソメイヨシノが早めに一斉に咲く傾向があるという。現在の開花予想では明々後日(三月十七日)ということ、お花見の時期がもう目の前に来ている。

昨年十一月の例会で「大学支援のあり方検討委員会」からいただいた答申内容を検討した結果、残念ながら当会として直ちに対応できるものはなかった。そのほとんどが大学側との協議、交渉、連携が必要なテーマばかりで、本日発表することはできない。ご承知のように、入試試験や卒業式で大学側になかなか時間が取れない現状で、一段落した来週あたりから協議を始めたかと考えている。

明治大学の一般入試志願者数については、昨年は五年ぶりに十一万人を超えたが、今年さらには六千八百名ほど増えて、十二万人の大台に乗り新記録となった。さらに十二年連続十万人以上という記録も続いており、大変な快挙だと思う。また昨年は早稲田大学に若干後れを取ったが、今年は三千名ほどの差をつけて抜き返した。明治大学は高校生に人気のある大学としての地位を確固としており、これもOBの方々のリーダーシップのたまものであるが、今後ますます素晴らしい大学であり続けることを祈念している。

今年には連合駿台会の前身である茗水クラブの創立(昭和二十八年)から六十五周年の節目の年となる。ということで九月十九日(水)に、ホテルグランドパレスで記念例会を開催したいと計画している。

当日の講演の主旨は以下の通りです。

\*

## 歴史が規定する経済 — それぞれの国が持つ性質 —



2018年3月14日(水) 18:00~19:00

帝京大学経済学部経済学科教授・慶應義塾大学経済学部非常勤講師  
 経済学博士・公開講義宿輪ゼミ代表

**宿輪純一**

### 歴史(トラウマ)が 経済の性質を規定する

欧州(ECB) / 米国(FRB) / 日本(BOJ)

### 先進国の経済政策目標

経済成長率(景気) ▶ 3%  
 (GDP:Gross Domestic Product)  
 物価上昇率 ▶ 2%  
 (消費者物価指数)

### 欧州 ▶ 欧州中央銀行 ECB (European Central Bank)

- 目的 ▶ 物価管理(インフレ抑制)
- トラウマ ▶ 第二次世界大戦  
←ナチス←ハイパーインフレ  
ドイツ連邦準備銀行

本日は、実は「歴史」というものが「経済」を規定していくということをご説明したいと思います。

特に中央銀行にその特徴がよく出ます。

実は先進国には大前提となる経済政策の目標があります。経済成長率3%と物価上昇率2%です。これはどの国でも一緒です。

まず欧州の場合ですが、特に特徴として「インフレ」に敏感だということがあります。それはハイパー(超)インフレで社会が乱れ、ナチスが出てきたという社会的歴史があるからです。

## フランス革命

新大陸植民地化(米国西部北部)  
 オルレアン公(ジョン・ロー)  
 フランス中央銀行▶債券大量発行

ナポレオン登場

## ゲーテ(作家+財務長官)

『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』

## ワイマール公国 ナポレオン進軍

### 『ファウスト』

“お金を刷ればいいんですよ”  
 (悪魔メフィストフェレスのささやき)

## 米国 ▶ 連邦準備銀行

### FRB (Federal Reserve Board)

- 目的▶雇用最大化・物価抑制
- トラウマ▶大恐慌  
=失業者の列

## イエレン元FRB議長

労働経済学専門  
 金融政策は、雇用のため

### ※中央銀行の仕事

## 日本 ▶ 日本銀行

### BOJ (Bank of Japan)

- 目的▶物価抑制・半身景気  
(政策に反しないこと)

日本銀行(中央銀行)の独立性

欧州ではフランス革命という大事件が起こったわけですが、実はそれも「インフレ」のせいなのです。新大陸植民地化に大量の予算をつぎ込みましたが、それは債券発行でカバーしました。しかし、開発もうまく行かず、お金を刷って、金融危機＝インフレが発生しました。その機に乗じたのがナポレオンでした。

同年代のドイツにゲーテという作家がいました。『若きウェルテルの悩み』などを書いていましたが、多才で、そのころワイマール公国の財務大臣をやっていました。

ゲーテはそのフランスの一部始終を見ており、遺作『ファウスト』で、お金を刷ることが良くないということを後世に戒めました。

米国のトラウマは「大恐慌」です。その象徴が失業者でした。そのため、経済政策の中でも、特に雇用が重視されるのです。

米国の中央銀行FRBのトップはその理由もあって労働経済学が専門のイエレンでした。

勘違いしている方も多いのですが、中央銀行の仕事は「金利をあげること」なのです。平常時に金利を上げておいて、危機の時には利下げできるようにするのです。

日本の場合は、金融政策は“政府の経済政策に反しないこと”という法律があります。

●トラウマ▶円高  
金融政策は、円高防止のため

現在のアベノミクス  
出来るだけ早い利上げを

〈相場予想〉  
宿輪式経済・市場相関表

		為替	株 (土地)	債券 (価格)		商品	
				国債	社債	金	原油
景気	上昇	○	◎	×	×	○	◎
インフレ	進行	×	×	×	×	○	○
金利	上昇	◎	×	×	×	×	×
財政	悪化	×	△	xx	△	◎	○
リスク	高	低リスク通貨 ◎	×	◎	×	◎	○

トラウマは「円高」です。ですから、実は歴史的に見て、金融緩和は景気よりも円高抑制の時に行われてきました。

現在の安倍政権は短期的には良いにしても、中長期的にみると、財政赤字（増税）・金利の引き上げなどを政治的に抑えており、これは一種の「政治リスク」と言えます。だんだん国民も分かってきて、将来不安が募り、景気は良くなりません。

最後に「経済・市場相関表」を付けました。それぞれの経済・金融的事象で各金融商品がどのように動くかを説明したものです。お手元に置いておかれると便利かと思います。

また、私は「宿輪ゼミ」というボランティア公開講義を月2回、主として第1と第3水曜日に文京区役所で12年やっております。どなたでも参加できますので、よろしかったら、ご参加ください。Facebookでグループに入っていたら、以下にご連絡をください。

shukuwa@shukuwa.jp

【講師略歴】

宿輪 純一  
(しゅくわ・じゅんいち)

学歴

1963年生まれ、麻布高校・慶應義塾大学経済学部卒業

2011年博士(経済学)取得

職歴

1987年 富士銀行新橋支店入行(国際資金為替部、海外勤務等)

1998年 三和銀行企画部入行(決済業務部)、合併でUFJ銀行(UFJホールディングス経営企画部、UFJ総合研究所国際本部等)

2006年 合併で三菱東京UFJ銀行(企画部経済調査室、決済事業部等)

2015年 3月退職、4月帝京大学へ奉職

教歴

2003年 東京大学大学院非常勤講師(3年)

2006年 清華大学大学院(中国)顧問

(1年)

2007年 早稲田大学非常勤講師(5年)

2009年 上智大学非常勤講師(1年)

2012年～ 慶應義塾大学非常勤講師(現職)

2015年～ 帝京大学教授(現職)

委員会歴

アジア開発銀行「アジア債券市場イニシアティブ(ABMI)」、財務省「ASEAN為替制度と金融市場研究会」、経済産業省「グローバル財務研究会」、外務省「アジア太平洋経済委員会」、全国銀行協会「SWIFT委員会」「全銀システム検討部会」「大口決済システム検討部会」他審議会等多数

著書単著

『通貨経済学入門(第2版)』、アジア金融システムの経済学』、『実学入門 社長になる人のための経済学—経営環境、リスク、戦略の先を読む』(以上、日本経済新聞社)、『決済インフラ入門』、『ローマの休日とユーロの謎—シネマ経済学入門』(以上、東洋経済新報社)

著書共著

『金融が支える日本経済—真の成長戦略を考える』、『円安VS円高 どちらの道を選択すべきか(新版)』、『マネークライシス・エコノミー グローバル資本主義と国際金融危機』(日本経済新聞社)、『決済システムのすべて(第3版)』、『証券決済システムのすべて(第2版)』(以上、東洋経済新報社)他

現連載

①ダイヤモンドオンライン「宿輪ゼミLIVE」(経済)、②講談社現代オンライン(経済)、③ハフィントン・ポスト「宿輪純一のシネマ経済学」(映画)

現在出演番組

文化放送「The News Masters TOKYO」(毎週火曜日8時00分～8時40分)

出演TV番組

NHK「視点論点」「キャッチ!世界のトップニュース」「国際報道」他、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」他、日本テレビ「日テレNews」他、日経CNBC、BS11他

### ◆広報委員会からの「案内」(理事会議事録)

日時…平成二十九年十一月十五日(水)十七時  
場所…明治大学「紫紺館」(二F会議室)

#### ○新入会員承認の件

高澤組織・会員増強委員長から、本日は柴田清之氏(株廣澤精機製作所・代表取締役社長、新社長就任リストより委員会にて推薦)、辻井知明氏(株ボルテックス投資顧問・代表取締役、主推薦者・栢森靖理事)、平田静子氏(株サニーサイドアップキャリア、ヒラタワークス(株)・代表取締役社長、主推薦者・田村駿会長)の三名が推薦されており、委員会では全員について入会を承認した、という報告があった。これに関して、全員異議なく承認された。

#### ○各委員長より報告事項

各委員会から、順次報告があった  
〈総務・事業委員会 山田副委員長〉

前回の理事会以降の開催行事についてご報告する。二月七日(水)の運営委員会終了後に、紫紺館において新入会員歓迎会を、二月十六日(金)には第二回目のグルメ交流会(於…上野広小路「今半」)を開催し、従来の例会とは違った形で会員の相互の親睦を深めた。今後は、四月十三日(金)に第十三回

オープンゴルフコンペ(於…鷹之台ゴルフ倶楽部)、四月十七日(火)に第十回ビジネス勉強会(講師…佐野公哉氏・谷原誠氏)を開催する予定。(いずれも終了)

#### 〈組織・会員増強委員会 高澤委員長〉

現在の入会状況についてご報告する。二月の持ち回り承認四名に本日承認いただいた三名を加え、今年度の入会者は三十九名となった。皆様のご協力に感謝する。平成二十九年四月一日時点での会員数は三百三十一名、一方、現時点での退会者(多年度年会費未納者も含む)は十五名で、さらに増えることも見込まれるため、今期は二十名ほどの純増ということになりそうである。

#### 〈広報委員会 齋藤委員長〉

従来からの年賀名刺広告については、大変古い企画でもあるので、時代に合わせて、皆さんにもっと参加いただけるようなものを検討していくつもりである。またホームページ等運営についても順調に推移しているが、今後はSNSシステムを取り入れ、より時代になかったものにした。大学支援のあり方検討委員会の答申案の中に、当委員会マターも多々あるので、委員会としても続けて検討を重ねたいと考えている。

#### 〈大学支援委員会 浅井委員長〉

前回の理事会報告以降、更新されたものについて説明・報告させていただく。

「学術賞・学術奨励賞」は一月十八日に表彰式・記念講演等が行われたが、相変わらず応募件数が少ないこと(十件)、また今回の受賞者は学術賞三名・学術奨励賞二名で、予算を大きくオーバーしたこともあり、今後、この枠をどうするかということ、担当である社会研究知財事務室と打ち合わせすることになっている。また大学支援のあり方検討委員会と今後の協議会でテーマがいろいろ出され、当委員会に投げかけられている検討事項が結構あり、「学術賞・学術奨励賞」に組み合わせる形で、若手研究者の表彰制度ができるかどうか、検討したいと思っている。

「寄付講座」(春期)は六月十四日に開催、講師は東京電力のソーシヤル・コミュニケーションス室長の榎本知佐氏にお願いした。ただ今回の講師選定に関しては、同氏が当会の寄付講座に先んじて、他の校友団体で講演をすることなどが後になって判明し、講演内容の重複・二番煎じの懸念などから講師変更も検討したが、大学の都合(パンフレット等が作製済みだったこと)もあり、今回は講演テーマを変えらることで予定通りの開催となった。今後はこのようなことがないように、講師の方自身に責任をもって確認していただいて進めてもらうよう、大学事務局側にも要請した。「フューチャースキル養成講座」は、次年度からは(株)中村屋が新たに加わり、従来の七社

(株)関電工・共同印刷(株)・京王電鉄(株)・(株)ホテルグランドパレス・三井住友海上火災保険(株)・山崎製パン(株)・(株)りそな銀行)の協賛企業八社で行うことで決定した。

「留学生支援」では一月三十一日、田村会長にも列席いただき、秋期修了式が行われた。

〈財務委員会 坂田委員長〉

現在の年会費未納状況は、三年未納が一名、二年未納が五名、本年度未納が二十一名で、合計二十七名(未納率七・七%)ということになっている。今後当委員会としては、総会に向けて経常収支のバランスがとれているのかどうかを精査し、ご報告する。

○その他

田村会長から、以下のような報告があった。連合駿台会の前身である茗水クラブが創立して、今年で六十五周年を迎える。ということから、平成三十年度中に「六十五周年記念式典」を開催したいと思っている。日程的には、九月例会予定日の十九日(水)に、ホテルグランドパレスで行う予定とし、総務・事業委員会で計画中である。

以上

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



宮崎 潔  
昭和五十七年・政経学部卒  
日本技術貿易(株)  
代表取締役社長  
東京都三鷹市在住



柴田 清之  
昭和六十年・政経学部卒  
(株)廣澤精機製作所  
代表取締役社長  
茨城県筑西市在住



辻井 知明  
昭和六十三年・法学部卒  
(株)ボルテックス投資顧問  
代表取締役  
神奈川県逗子市在住



平田 静子  
昭和四十四年・短大法律学科卒  
(株)サイエンスモリアヒラワックス(株)  
代表取締役社長  
東京都調布市在住

◆明大ニュース

●二〇一八年度入学式

二〇一八年度入学式が四月七日、日本武道館で挙行された。式典は学部・大学院別に午前十と午後の二部制で行われ、夢や希望を胸に

抱いた新生八千二百五十人(学部生七千二百八十一人、大学院生九百六十九人)が、新たなスタートを切った。

土屋学長は告辞の中で、無限に広がる学びの多様さを説きながら、詩人W・H・オードンの『見る前に飛べ』の詩を紹介。「大学は未体験の新しいことばかり。そうであるからこそ、さらに新しいことを求め、異なる言語、異なる文化へと飛び込んでいけばいい。見る前に飛べ」と激励した。

祝辞に立った柳谷理事長は、未来の担い手である新生人に向け、新たな世界への挑戦や全力で挑み続ける「行動力」の重要性を訴えた上で、「新たに出会う仲間と切磋琢磨し、それぞれにふさわしい『個』の確立を目指してほしい」と期待を込めた。

続く宣誓では、午前の部で農学部の岡田力樹さん、午後の部で文学部の伊藤彩恵花さんがそれぞれ新生人を代表して登壇。「日本という狭い鳥籠にとどまる鳥ではなく、世界に羽ばたいていける鳥になれるよう、一日一日を大切に、精進していく」(岡田さん)、「座学だけではなく、ゼミナール活動やサークル、部活動などさまざまな場面で挑戦し続け、理想へとまい進していく」(伊藤さん)と、力強く抱負を語り、最後は全員で校歌を斉唱した。

式典後は、前方スクリーンに大学生活の紹

介映像が流れる中、明治大学交響楽団、グリークラブ、混声合唱団が演奏・合唱を披露するなど、新人生歓迎セレモニーとして入学記念演奏を実施。祝福を受けた新入生たちは思いを新たに、明大生としての一步を踏み出した。

### ●「明大出身政財界人との懇談会」を開催

明治大学出身政財界人と学校法人明治大学との懇談会が三月十二日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。今回で八回目となった同会には、国会議員や首長、企業の役員らが出席し、柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長をはじめ大学役員・役職者、校友会役員らと懇談した。

主催者を代表して柳谷理事長は、第二期中期計画の一端を紹介し、「私立大学を取り巻く環境は厳しいが、危機感を持ちながらもこれをチャンスと捉えて発展させていきたい。引き続き、皆さまからのご指導・ご支援をお願いしたい」とあいさつ。続いて、土屋学長は、一般入試志願者数が十二万人を突破したことを報告し、「この勢いを持って、アジアのトップ100に入れるよう、明治大学を前進させたい」と意気込みを語り、引き続きの協力に理解を求めた。

出席者を代表して登壇した株式会社イトーヨーカ堂代表取締役社長の三枝富博氏（一九七三年

法学部卒・連合駿台会員）は、自らの経験を振り返りながら、「社員にはいつも自律的人材になってほしいと伝えている。世の中が大きく変化していく中でも、主体的に自由な発想を持って取り組むことができれば、必ず乗り越えられる」と熱弁。「明治大学からも素晴らしい人材を輩出されることを心から期待している」と締めくくった。

懇談会は、向殿政男校友会長の乾杯でスタート。母校に集った政財界人、大学関係者たち約百九十人は、情報交換や談笑をしながら各々のネットワークを広げ、関係を深めている様子だった。

### ●メキシコ紫紺会に会旗を贈呈

明治大学は三月十九日、校友会で設置が承認された「メキシコ紫紺会」へ会旗を授与した。世界各国・地域で活躍する校友らで組織される海外紫紺会は、これで計二十団体となった（校友会大韓民国支部、台湾支部は除く）。

駿河台キャンパス・紫紺館で行われた会旗授与式には、明治大学からは柳谷孝理事長と向殿政男校友会会長はじめ大学役員と商学部の所康弘准教授、メキシコ紫紺会からは堀内泉会長（一九七一年工学部卒）らが出席。柳谷理事長から堀内会長へ会旗が手渡された。

メキシコ紫紺会は、一九九〇年に設立され

た「メキシコ明治大学OB会」をルーツに改称。現地では、十五人の会員が食事会やサークルなど定期的に活動しており、メキシコへ留学する明大生に対しても親身なサポートを行っている。また、昨年九月に発生したメキシコ地震の際には、所ゼミが連携して復興支援活動を行うなど、関係も深い。

会旗を受け取った堀内会長は、感謝の意を表するとともに「今後とも、大学との関係をより一層深めていきたい」と意気込みを語った。

### ●私立大学研究ブランディング事業

#### 第一回公開シンポジウム

#### 『数理科学の誘惑』

#### 「対話が誘う文理融合の世界」を開催

明治大学先端数理科学インスティテュート（MIMS）は三月十七日、公開シンポジウム『数理科学の誘惑』対話が誘う文理融合の世界を駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催した。

これは、文部科学省平成二十八年度私立大学研究ブランディング事業に採択されている「Math Everywhere：数理科学する明治大学」の活動の一環として、研究のさらなる推進と社会への発信を目的とした初の試みで、約三百三十人が来場した。

四部構成の最初のプログラムは「インテリ

ジェンスの深層」。三村昌泰学長特任補佐の講演の後、研究・知財戦略機構の中沢新一特任教授、山口智彦特任教授を加えた三人による鼎談を実施。数理学や民俗学など、理系と文系の両方の側面から知性について議論が交わされた。

二つ目の「豊む世界・広げる世界」プログラムでは、萩原一郎研究・知財戦略機構特任教授と、国立科学博物館館長の林良博氏が講演。荒川薫総合数理学部教授を交えた鼎談では、理系の中でも工学と生物学といった別分野の掛け合わせに関する話題が展開された。

休憩を挟み行われたプログラム「楽曲のひととき」では、小川知之総合数理学部教授、武仲能子氏（産業技術総合研究所主任研究員）、研究・知財戦略機構の三村与士文研究員による尺八・箏、フルート、ピアノの演奏が実現。「音楽と数学には結びつきがありません」という小川教授のメッセージに続いて行われた「AIと音楽」のプログラムでは、総合数理学部の嵯峨山茂樹教授による講演が行われ、自動作曲システムを例に挙げながら今後のAI技術や音楽を含む芸術の未来について問題提起がなされた。

最後の「理性を欺く錯視の世界」をテーマにしたプログラムでは、杉原厚吉研究・知財戦略機構特任教授が変身立体等の作品の映像を通して、当たり前のように目を使って生活

している中に潜む「見る」ことの危うさや不思議さについて講演。続く鼎談では、飯田泰之政治経済学部准教授、田野倉葉子先端数理学部研究科特任准教授とともに、日常生活に錯視が引き起こす影響を経済学の視点を取り入れながら解説した。

来場者は「文理融合のテーマは、理系だった自分にもとても興味深く有意義な時間だった」「高校レベルの数学の知識でも、興味をそえられる内容だった」と感想を語るなど、社会に役立つ数理学が本学のブランドとして広がりをみせる大きな一歩となった。

### ●「自動運転社会総合研究所」を設立

明治大学研究・知財戦略機構はこのたび、自動運転社会に向けた複合的な課題について、技術・社会・経済・地域に関する横断的な研究を通じて解決・改善策を探る学際的な研究組織として「明治大学自動運転社会総合研究所」を設立した。

三月二十八日、駿河台キャンパス・リパティタワーで行われた記者会見には、土屋恵一郎学長、同研究所の中山幸二所長（法務研究科教授）をはじめ、各分野の研究者が出席。会見の席で土屋学長は、「自動運転は日本のみならず世界の大きなトピック。10学部 の枠組みを越えて、総合的な研究を行う」と展望を示し、中山所長は、「学内外の研究機

関や地方自治体とも連携し、自動運転社会を実現していきたい」と意気込みを語った。

人口減少下での経済活動、地域インフラの維持において今後大きな役割を果たすと予想されている自動運転技術。一方で、その社会的実装には技術的な課題はもろろんのこと、法制度やビジネス・地域社会の対応など社会的なハードルも少なくない。

同研究所では、来たる「自動運転社会」に向けての技術開発、法制度・経済制度の研究を通じて地域社会の持続的発展を企図する。自動運転技術の普及によって、農林水産業を日本経済の新たな基軸とするとともに、その第二次・第三次産業への波及が日本の経済・社会の長期的反映に資することを目指す。

### ●駐日マケドニア大使が来訪

#### ―新年度を迎え海外大学からも続々―

マケドニア共和国のアンドリヤナ・ツヴェトコビッチ特命全権大使が四月二日、駿河台キャンパスを訪問した。明治大学と同国の大学との学術交流などについて、土屋恵一郎学長、大六野耕作副学長（国際交流担当）、牛尾奈緒美副学長（広報担当）と貴賓室で懇談した。

旧ユーゴスラビアより一九九一年に独立した同国は、二〇一四年十月に在京大使館を開設。初代駐日大使のツヴェトコビッチ大使



は、日本の大学で博士号を取得するなど、日本への造詣も深く、懇談は和やかな雰囲気の中で行われた。

土屋学長が「今日を契機にマケドニアの大学との連携を強化していきたい」と期待を述べると、ツヴェトコビッチ大使は「明治大学は素晴らしい教育システムがある。ぜひマケドニアの大学との協定締結につなげたい」と将来的な連携について意欲を示した。

#### ハンガリー、ロシアの大学からも訪問

四月九日に、ハンガリーからエトヴェシュ・ロラード大学のボルヒ・ラーズロー学長ら、十一日には、ロシア・サンクトペテルブルク工科大学のルドスコイ・アンドレイ学長一行が駿河台キャンパスを訪れ、土屋学長、大六野副学長らと懇談した。

それぞれの大学とは、既に大学間協定を締結しており、エトヴェシュ・ロラード大学とは主に学生交流について、サンクトペテルブルク工科大学とは小川知之副学長（研究担当）も交えて研究連携など今後の関係深化に向けて意見交換を行った。

#### OB市長

▽埼玉県戸田市長（三月二十五日投票）

菅原文仁氏（無所属①、二〇〇八年大学院ガバナンス研究科修了・四十二歳）

#### OB社長

▽新潟スチール(株) 前島邦保氏（一九九一年・政経学部卒・四十九歳）

▽東洋金属(株) 原正道氏（一九八七年経営学部卒・五十三歳）

▽(株)ロッテ 牛腸栄一氏（一九八三年政経学部卒・五十七歳）

▽(株)博報堂プロダクツ 岸直彦氏（一九八三年政経学部卒・五十七歳）

▽大阪スバル(株) 山本山氏（一九八〇年経営学部卒・六十歳）

▽富士電機機器制御(株) 篠崎美調氏（一九八七年工学部卒・五四歳）

▽監査法人トーマツ 国井泰成氏（一九八二年経営学部卒・五十八歳、六月一日包括代表（社長相当）就任予定）

#### 総合数理学部・砂田利一教授が

##### 「文科大臣表彰・科学技術賞」を受賞

科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者をたたえる「平成三十年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」において、総合数理学部の砂田利一教授が「科学技術賞（研究部門）」を受賞した。

科学技術賞は、科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究または開発を行った研究者が対象。砂田教授の「離散幾何解析学の構築と応用の研究」に関わる業績が

高く評価され、今回の受賞に至った。

#### 「グローバル人材育成講座」がスタート

経営学部の中西晶教授がコーディネーターの学部間共通総合講座「役に立つ世界情勢の読み方」が「グローバル人材育成講座」として四月十日にスタートした。

当日は、堀江正彦学長特任補佐がシラバスをもとに、日本と米国、中国、韓国、ロシア、アセアン、中東諸国との関係、国際連合や途上国支援、地球環境問題などに関して、外務省、JICAなどからの外部講師を招き、世界情勢に関して議論することについて紹介。また、講座を活用して、受講生が活発に質問し、意見を述べ、プレゼンをする「白熱教室」としての旨の説明があった。

その後の講義では、堀江特任補佐が現役だったころの外交活動を紹介する番組を鑑賞するとともに、焦眉の急を告げている北朝鮮問題に関して、「なぜ朝鮮半島の非核化が必要なのか」「米朝首脳会談に何を期待するか」など多くの質問があがるなど、活発なアクティブ・ラーニングがスタートした。

#### 「アンバサダー・ラウンジ」オープン

明治大学におけるマレーシア工科大学のサテライト・オフィス（駿河台キャンパス・アカデミーコモン七階）を「アンバサダー・ラ

ウンジ」と称して、ランチタイムに日本人学生と留学生との交流促進のために活用している。

今年も四月十日にオープンし、ドイツやイタリアからの留学生や、日本人学生を含め十人でのスタート。十七日には十七人の参加となった。学生たちは、ドイツやイタリアと日本における生活の違いや、日本人学生のアルバイトに精を出さざるを得ない実情などに関して話が弾んだ。また、留学生たちは、日本が清潔で外国人に親切なことは素晴らしいが、過剰包装が横行していて、プラスチック袋が大量に使用・投棄されていることは問題であると指摘した。

今後は、ニューヨーク州弁護士である且英夫氏を迎えたトランプ大統領下の米国の状況についての講話や、シリア難民留学生による講話、マレーシア工科大学の学生や中国人学生との交流を予定している。

● 明治大学×小田急電鉄提携記念講座  
「小田急沿線の明治大学文化を訪ね  
ぶらり旅」

明治大学の生涯学習機関・リバティアカデミーは三月三十一日、明治大学・小田急電鉄提携記念講座「小田急沿線の明治大学文化を訪ねぶらり旅」を駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催。約五百人が受講した。

柳谷孝理事長のあいさつでスタートしたこの講座は、四月から生涯学習事業で提携を開始した小田急電鉄(株)の前身である「小田原急行鉄道」の創業者・利光鶴松氏と、新宿を好んだ作詞家の阿久悠氏、向ヶ丘遊園近くに居を構えた映画監督の岡本喜八氏、鶴沼海岸で執筆活動に勤しんだ作家の母澤寛氏の、明治大学で学び小田急沿線に縁のある四人の人物像に迫るといふもの。講師は吉田悦志国際日本学部教授が務めた。

まず、利光氏について吉田教授は、二十歳で上京し滞在した武蔵五日市を起点として、学間に没頭した日々や明治法律学校へ入学するまでの経緯など数々のエピソードを紹介。弁護士、政治家、実業家へと活躍した来歴を解説し、「武蔵五日市での学びにより培った知識と現場の環境によって、小田急電鉄創業の発想が生まれたのでは」と持論を展開。

続いて、演歌からロックまで五千曲以上の作品を世に送り出した阿久氏については、楽曲を実際に聴きながら詞の移ろいや作曲家・古賀政男氏との作風の違いについて考察。映画界の異才・岡本監督については、「闘い」をテーマにした作品解説と映画『シン・ゴジラ』(庵野秀明監督)との相関関係に触れ、子母澤氏については、『新選組物語』や『勝海舟』など幕末の日本を描くに至った背景や『座頭市物語』でつながる明大文化などについて

披露した。吉田教授は、「いずれも地域的特質を持つ大衆性が注がれた明治大学で学んだ者たち。その人物が大衆文化の担い手となったことは必然ではないか」と締めくくった。

受講者からは、「文化的な観点で新たな発見ばかりだった」「小田急沿線在住の明大卒業生にはこの提携は嬉しい」と声が聞こえるなど、今後のさらなる連携に期待が高まる講座となった。

● 国際武器移転史研究所  
国際セミナー  
「武器の入手可能性と暴力との関係性」

国際武器移転史研究所(所長 横井勝彦 学部教授)は三月二十八日、科学研究費助成事業(基盤研究(B)、若手研究(B))との共催で、国際セミナー「武器の入手可能性と暴力との関係性」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。

このセミナーでは、安全保障研究者・実務者と人類学者、歴史学者による学際的研究を通じて、武器の入手可能性と暴力との関係性について考えるというもの。

ノルウェー・オスロ国際平和研究所のニコラス・マーシュ氏ほか三人の研究者が報告を行い、アフリカの牧畜民に関する人類学研究や、日本の事例に関する歴史学研究など、同テーマにおける先行研究や政策論議について

理解を深めた。

### ● 女性のためのスマートキャリアプログラム 春期四十七人が入校

リバティアカデミーは四月七日、二〇一八年度春期「女性のためのスマートキャリアプログラム」四十七人（昼間コース七期生二十三人、夜間・土曜主コース六期生二十四人）の入校式を、駿河台キャンパス・グローバルホールで挙行した。

式典では、竹本田持副学長（農学部教授）および大友純リバティアカデミー長（商学部教授）による祝辞が贈られ、プログラムコーディネーターの小川智由商学部教授から、半年間の学びを支える講師陣の紹介があった。

続いて、連合駿台会新会員の平田静子氏（ヒラタワークス(株)代表取締役、(株)サニーサイドアップキャリア代表取締役）による「人生を楽しむ仕事術」と題した記念講演が行われた。平田氏は、編集長として多くの出版物をプロデュースした経験や、起業し現在に至るまでを振り返り、仕事を持つことの醍醐味や家庭との両立についてアドバイス。「人生は選択の連続。特に女性は選択肢が多いが、より良い選択をしながら豊かな人生を築いていってほしい」とエールを送った。

最後に井田正道履修証明プログラム専門部会長（政治経済学部教授）により閉式の辞が

述べられ、履修生それぞれの人生のビジョン実現に向けた新たなスタートとなった。

### ● 二〇一八年度春季開設オープン講座 ノーベル経済学賞で注目を集める 「行動経済学」の公開講座を開催

リバティアカデミーは四月十一日、「行動経済学とは何か」経済は『感情』で動いている」と題した公開講座を駿河台キャンパス・リバティホールで開催した。二〇一七年度のノーベル経済学賞は、行動経済学の理論的發展に寄与した理由で米シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が授与したこともあり、平日夜間の講義にもかかわらず三百人を超える来場があった。

講師を務めた友野典男情報コミュニケーション学部教授は、意思決定の仕組みである「二重プロセス理論」や、心理効果の「アンカリング効果」について、事例を交えながら解説した。

さらに、「社会科学は、人間行動学の基礎の上に成り立っていくだろう」と行動経済学の将来について持論を展開し、盛況のうちに講義は終了。参加者からは、「ビジネスにも役立つ有意義な講義であった」「1000円の受講料で提供してくれるのは大変うれしい」といった声が聞かれた。

### ● 硬式野球部 星野氏追悼試合で東大に勝利

体育会硬式野球部の東京六大学野球春季リーグ初戦となった四月二十一日の東大戦では、試合前にOBである星野仙一氏の追悼セレモニーが行われた。

明大関係者や多くの観客が見守る中、神宮球場のバックスクリーンには星野氏の雄姿が映し出され、グラウンドでは黙とうが捧げられた。喪章を付けた明大ナインは、星野氏の遺志を胸に全力でプレー。結果は9-2で勝利を収めた。

### ● 柔道部 小川雄勢選手が「体重別選手権」で初優勝

体育会柔道部の小川雄勢選手（政経4）が四月八日、福岡国際センターで開催された柔道の全日本選抜体重別選手権大会に出場し、男子一〇〇kg超級で初優勝を果たした。

同大会は、九月にアゼルバイジャン・バクーで開催される世界柔道選手権大会の日本代表選手選考を兼ねて各階級のトップ選手八人によるトーナメント形式で行われ、決勝では、リオデジャネイロ五輪銀メダルの原沢久喜選手を破り優勝。昨年の講道館杯、グランダムスラム東京に続く、国内三大会での優勝を達成し、世界選手権代表選出に向け存在感を示した。

## ●水泳部

## ●松元克央選手が優勝自由形の日本代表に

体育会水泳部の松元克央選手（政経4）が、第九十四回日本選手権水泳競技大会（四月三日～八日・東京辰巳国際水泳場）の男子200m自由形に出場。決勝で、日本記録まで0・7秒差に迫る1分45秒93の好タイムを記録し、見事優勝を果たした。

この結果により、松元選手は八月に開催される第十三回パンパシフィック水泳選手権大会と第十八回アジア競技大会の日本代表選手に決定。世界の舞台で頂点を目指して戦う。

## ●競走部

## ●山本佑樹氏が駅伝監督に就任

体育会競走部は四月一日、山本佑樹・長距離コーチが新駅伝監督に、西弘美・駅伝監督がスーパーバイザーに就任する新体制を発表した。

山本駅伝監督は長距離選手を引退した二〇〇六年から旭化成陸上部の指導者に就任し、二〇一七年からは体育会競走部の長距離コーチを務めていた。このたび駅伝監督の襷を受けて、二〇一八年度のチームを率いる。

## ◆退会会員

（平成二十九年四月～三十年三月）

浅倉晴司、市川光夫、稲垣治、上田興文、

大山卓良、岡安高雄、総田清隆、黒子昇、坂尾昌一、眞田瞳、多田弘、館林精二郎、辻嘉右工門、永守智弘、蓮池信之、吉野貞雄  
（敬称略）

## ◆三月例会出席者

相澤淳一、青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、安達明正、有賀隆治、飯田和人、池田勝也、石川均、石原道勝、市川治彦、同ご友人、井上欽也、同ご友人、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、内川雄二郎、江崎徹、大石哲也、大原幸男、大前実之、大村託現、岡田茂、勝保正義、栢森靖、荻部彰夫、河村章、神林光、草木頼幸、小島清治、小山修、根田哲雄、齋藤柳光、坂田英夫、佐藤和正、佐藤健、志田憲彦、鈴木絃一、鈴木隆志、同ご友人、関根均、瀬戸正道、高澤徹、田代恭一（代理）、谷原誠、田村駿、天童美德（代理）、当山明彦、徳丸平太郎、中川敏洋、中里猛志、中村豊、並木洋一、二井康夫、西山武夫、二宮充子、根岸伸明、長谷川進一、同ご友人、幡谷公朗、埴英幸、馬場範夫、林威樹、原田榮、福田和彦、同ご友人、藤巻伴英、前川一郎、眞壁八郎、松崎優子、摩尼和夫、宮坂寿彦、宮下隆、村岡健、村山友彦、室井恵明、柳谷孝、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田朝彦、弓野理恵

## 【編集後記】

寒暖の差はありますが、日増しに暖かくなり、柔らかな新芽も美しい濃緑色に変わって私たちを楽しませてくれています。会員の皆様におかれましては、お変わりございませんでしょうか？

今年も明治大学は学部生、院生を合わせて八千二百五十名が入学し、キャンパスは活気にあふれています。女性の比率も三五％に増えているとのこと。私が学生でした平成ヒトケタ代ですら、経営学部クラス五十人のうち女性は五人程度でしたから、隔世の感があります。駿河台キャンパスを歩いておりまして、学生の頃にあつた建物はほとんど新しくなりまして、日本大学などの校舎もずいぶん建て替わりましたから、この二十年で御茶ノ水界隈は、雰囲気がいぶん変わったように思います。

町並みが変わっただけでなく、地方からの学生が二割にとどまっているという話を耳にしました。私の同期は福岡や名古屋、山口と地方の人が多く、千葉県育ちで実家通いだつた私は、同期の下宿アパートを転々と泊まり歩き、同期と一献傾けたことを懐かしく思い出します。地方の同期は地元の有業者の子弟が多かつたように記憶しています。大都市圏は経済的に活気があるものの、残念ながら地方経済は大きく低迷していると聞きます。日本社会の一端を、地方からの学生比率の減少に見ることができると感じました。

先日、日経の記事を拝読し、母校の発展を大変喜ばしく思います。校友として鼻高々に感じる人が多い今日この頃です。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、気温の乱高下などで、どうかお風邪など召しませぬよう、ご自愛願えれば幸いに存じます。

（相臺志浩）